



山形県感染症発生動向調査

平成30年第14週(4月2日～4月8日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
 URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
 2018年4月11日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少 ※◎:警報レベル ○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第13週	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	16749 3.39	486 ◎10.13	341 7.10	▼	120 6.00	117 5.85	▼	39 7.80	41 8.20	△	188 ◎18.80	131 ◎13.10	▽	139 ◎10.69	52 4.00	▽	15219
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	1139 0.36	8 0.27	23 0.77	△		5 0.38	△		1 0.33	△	5 0.83	17 2.83	△	3 0.38		▽	175
咽頭結膜熱	877 0.28	7 0.23	5 0.17	▽	6 0.46	1 0.08	▽				1 0.17	4 0.67	△				201
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	6522 2.06	80 2.67	59 1.97	▼	47 3.62	32 2.46	▽	1 0.33	3 1.00	△	20 3.33	20 3.33		12 1.50	4 0.50	▼	1747
感染性胃腸炎	14206 4.50	151 5.03	136 4.53	▽	47 3.62	55 4.23	▲	21 7.00	27 9.00	▲	24 4.00	21 3.50	▽	59 7.38	33 4.13	▽	1840
水痘	851 0.27	7 0.23	7 0.23		3 0.23	5 0.38	△				4 0.67	2 0.33	▽				175
手足口病	480 0.15	1 0.03	8 0.27	△	1 0.08	8 0.62	△										212
伝染性紅斑	253 0.08	7 0.23	6 0.20	▽	1 0.08	2 0.15	△				6 1.00	4 0.67	▽				63
突発性発しん	1221 0.39	11 0.37	12 0.40	△	3 0.23	4 0.31	△				7 1.17	5 0.83	▽	1 0.13	3 0.38	△	180
ヘルパンギーナ	41 0.01	1 0.03	1 0.03		1 0.08	1 0.08											26
流行性耳下腺炎	380 0.12	2 0.07	2 0.07		1 0.08		▽				1 0.17		▽		2 0.25	△	39
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	18 0.03																
流行性角結膜炎	439 0.63																14
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	198 0.42	1 0.10		▼	1 0.25		▽										11
クラミジア肺炎	3 0.01																
マイコプラズマ肺炎	74 0.16	2 0.20	4 0.40	▲	1 0.25	4 1.00	△	1 1.00		▽							44
細菌性髄膜炎	6 0.01																4
無菌性髄膜炎	16 0.03																2

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	1			1	
	無症状病原体保有者	1	1			
つつが虫病	患者	1				
百日咳	患者	2				※第12週追加報告1件、第13週追加報告1件。 ワクチン接種歴:不明 2件。成人2人。

<通信欄>

※インフルエンザの県平均定点当たり報告数は、第3週から継続して警報レベルで推移していましたが、第14週は警報終息基準値(10.0人)を下回りました。迅速キットによる型別は、A型:232件、B型:107件、不明:2件です。
 ※ピックスで、つつが虫病について掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ	2	4	25	17	28	38	35	18	16	7	8	23	6	15	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	19	9	16	26	12	17									341
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	3	2	12	6											23
咽頭結膜熱			3		1	1									5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	4	8	9	13	6	4	3	2	8		1	59
感染性胃腸炎	1	6	24	25	18	13	18	3	4	5	4	12	1	2	136
水痘					3		1			1	2				7
手足口病				1	2	2	1			1	1				8
伝染性紅斑					1	1	1	3							6
突発性発しん		3	8	1											12
ヘルパンギーナ		1													1
流行性耳下腺炎							1	1							2

< 平成30年2月 月報 >

2018年3月22日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～2月	
	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	19	19	5	9	9	7	1		4	3	38
	定点当り	1.90	1.90	1.25	2.25	9.00	7.00	0.50		1.33	1.00	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	9	11	2	1		4	3	3	4	3	20
	定点当り	0.90	1.10	0.50	0.25		4.00	1.50	1.50	1.33	1.00	
尖圭コンジローマ	報告数	3	2	1	1					2	1	5
	定点当り	0.30	0.20	0.25	0.25					0.67	0.33	
淋菌感染症	報告数	3		2						1		3
	定点当り	0.30		0.50						0.33		
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	3	6				1		2	3	3	9
	定点当り	0.30	0.60				1.00		1.00	1.00	1.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	20	13	6	5	2		3	2	9	6	33
	定点当り	2.00	1.30	1.50	1.25	2.00		1.50	1.00	3.00	2.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

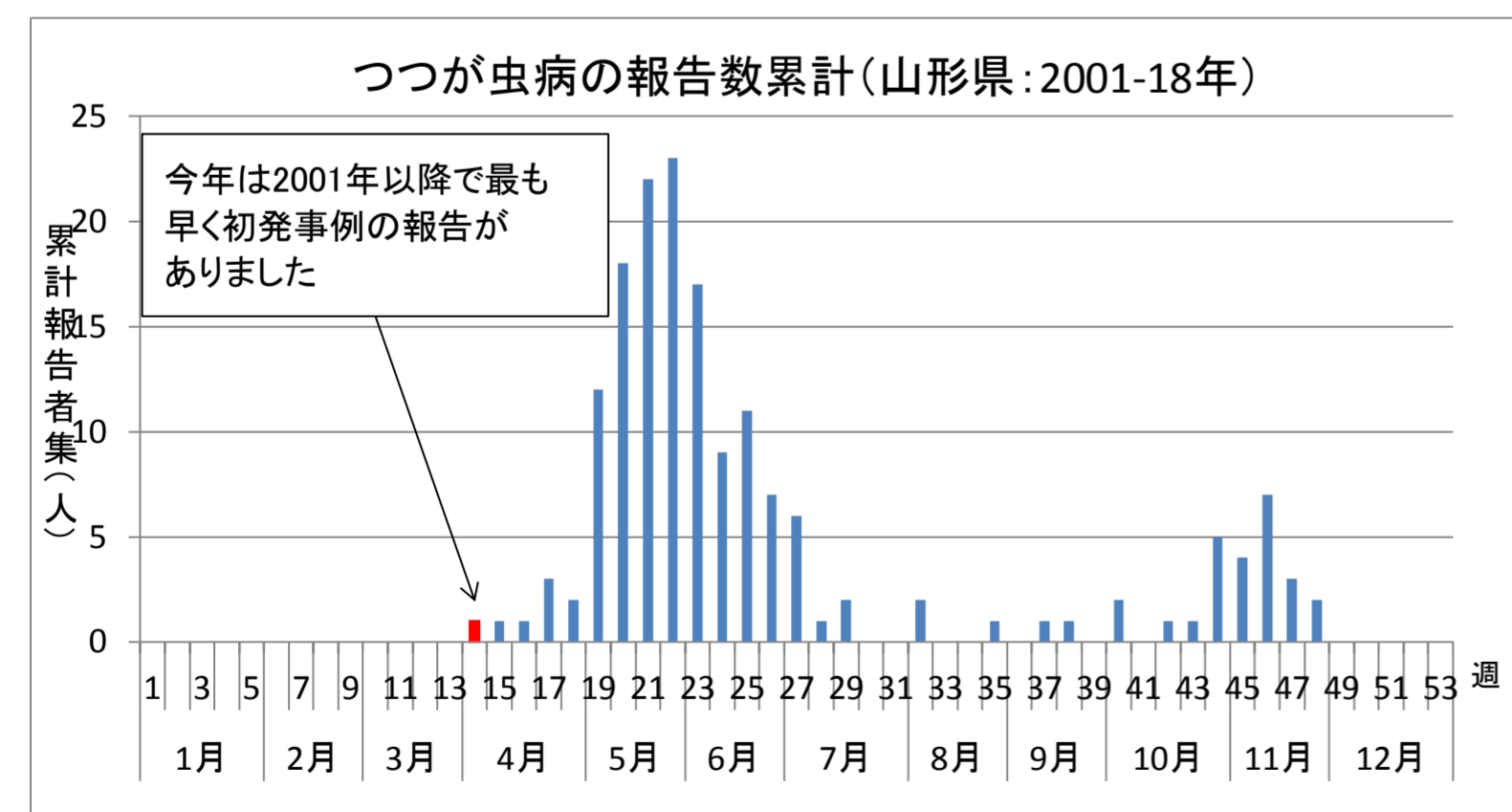
< トピックス >

【つつが虫病情報】

第14週に、県内で今年初のつつが虫の報告がありました。

つつが虫とは

ツツガムシ(ダニの一種)の幼虫に刺されて、高熱や発疹などの症状が出る病気です。県全体で年平均9.7人(2～24人)の報告があります。発生時期は、山形県では春から初夏にかけて多く、秋にもみられます。



《症状・治療》

典型的な症例では、ツツガムシに刺されてから5～14日後に39度以上の高熱を伴って発症します。その際、ツツガムシに刺された皮膚には、かさぶたのような刺し口がみられます。その後数日で、体幹部を中心に発疹がみられるようになります。

重症化を防ぐためには、早期につつが虫病を疑い、適切な抗菌薬を投与することが重要です。受診の際は、医師に数日前にツツガムシのいそうな場所に立ち入ったことや、刺し口があることを伝えましょう。

《予防法》

ツツガムシは、田畑、山林、やぶ、河川敷、草原などに生息しています。

これらの場所に立ち入るときは、次のようなことを心がけることが大切です。

- ①長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用し、素肌をできるだけ露出しない。
- ②ダニ忌避剤、防虫剤を衣服に散布する。
- ③なるべく草むらに直接座らない。
- ④帰宅したら早めに入浴し、ツツガムシ幼虫を洗い流す。

山形県の春のつつが虫患者数予測結果(2018年)

山形県衛生研究所では、本県における春のつつが虫患者数と過去の気象データに関連性があることを見出し*、過去の気象データから翌春(未来)のつつが虫患者数を予測する取り組みを行っています。

*Epidemiology and Infection, 145:462-470, 2017

予測結果: 2018年春の山形県におけるつつが虫患者数は **やや少ない**



ヒゲツツガムシの幼虫 (撮影: 衛生研究所)

衛生研究所では、つつが虫病についてのパンフレットを作成しています。衛生研究所のホームページからダウンロードできますので、ぜひご利用ください。

※衛生研究所ホームページアドレス:

<http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp>